

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
計算人文社会学各論	人文学・社会科学の計 算的アプローチ入門	2	瀧川 裕貴	5	金	3	1	対応科目なし
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	佐藤 嘉倫	3	月	4	2	
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	火	5	3	
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	佐藤 嘉倫	4	月	4	4	
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	火	5	5	
行動科学基礎演習	行動科学のための数理 モデル入門	2	神林 博史	3	火	3	6	
行動科学基礎演習	行動科学のための因果 推論入門	2	浜田 宏	4	金	4	7	
行動科学基礎実習	社会調査演習	2	永吉 希久子	3	水	4・5	8	
行動科学基礎実習	多変量解析	2	永吉 希久子	4	水	4・5	9	
行動科学各論	多文化共生論	2	永吉 希久子	5	木	2	10	
行動科学各論	リスクと防災の社会学	2	佐藤 嘉倫	6	月	5	11	
行動科学各論	政治心理学	2	田辺 俊介	集中(6)			12	
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	月	4	13	
行動科学演習	社会秩序形成とエー ジェント・ベースト・モデ ル	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	5	水	3	14	
行動科学演習	偏見の社会学	2	永吉 希久子	5	金	2	15	
行動科学演習	「質問の科学」実験実 習	2	木村 邦博	6	月	4	16	
行動科学演習	社会科学のためのエコ ノメトリクス	2	浜田 宏	6	水	2	17	
行動科学演習	エージェント・ベースト・ モデルによる社会現象 の分析	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	6	水	3	18	
行動科学演習	移動と階層	2	永吉 希久子	6	金	2	19	
行動科学演習	ベイズアプローチによる 社会学の理論と実証	2	浜田 宏	集中(5)			20	

科目名：計算人文社会学各論／ Computational Humanities and Social Sciences(Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴（准教授）

講義コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-OS0304J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

人文学・社会科学の計算的アプローチ入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Computational Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

近年、人文学や社会科学において、ビッグデータや計算的手法を用いた研究が発展してきている。この授業では、人文学や社会科学のトピックに計算的アプローチを応用する計算人文社会学に関して、方法論の基本、背景となる理論、実際の研究例を紹介することで、計算人文社会学という新しい学問について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

- 1) 計算人文社会学で用いられる方法論や理論の基本的内容や特徴を理解できるようになる。
- 2) 計算人文社会学や計算的手法の用いられた人文・社会科学の論文を読解し正しく理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、M.サルガニックの『ビットバイビット』(M.Salganik, 2017, Bit by Bit, Princeton University Press。2019 年 4 月に有斐閣から翻訳が刊行予定)を教科書として用いて、ビッグデータ分析、サーベイ調査、デジタル実験の 3 つの方法を中心に、計算人文社会学の理論と方法について講義形式で進めていく。

スケジュールは、以下の予定である（ただし授業の進度や受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある）。

1. イントロダクション
 2. 計算人文社会学とはなにか
 3. ビッグデータの特徴、その長所と短所
 4. ビッグデータを用いた研究事例 1
 5. ビッグデータを用いた研究事例 2
 6. ビッグデータ分析についてのまとめ
 7. サーベイ調査の歴史と新展開
 8. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 1
 9. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 2
 10. デジタルサーベイ調査法についてのまとめ
 11. 実験研究の基本的論理とデジタル時代における発展
 12. デジタル実験の研究事例 1
 13. デジタル実験の研究事例 2
 14. デジタル時代の実験法についてのまとめ
 15. 全体のまとめ
6. 成績評価方法：
- 出席・授業での発言など（50%）、期末レポート（50%）
7. 教科書および参考書：
- M.Salganik, 2017, Bit by Bit, Princeton University Press (=2019、『ビットバイビット』有斐閣[日本語版は 4 月までに出版される予定])
8. 授業時間外学習：
- 事前に教科書の該当箇所を読み、授業での質問や発言に備える。また、授業後は理解を深めるために教科書の復習をすることが望ましい。
9. その他：なし

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫（教授）

講義コード：LB31403, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

ミクロ-マクロ問題入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Micro-macro Problems

3. 授業の目的と概要：

次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。

(1) 個人的意思決定モデル

(2) 交換モデル

(3) 拡散モデル

(4) 学習モデル

4. 学習の到達目標：

個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書第 1 章、第 2 章)
2. イントロダクション (2) (教科書第 1 章、第 2 章)
3. 推論の評価 (1) (教科書第 3 章)
4. 推論の評価 (2) (教科書第 3 章)
5. 選択モデル (1) (教科書第 4 章)
6. 選択モデル (2) (教科書第 4 章)
7. 選択モデル (3) (教科書第 4 章)
8. 交換モデル (1) (教科書第 5 章)
9. 交換モデル (2) (教科書第 5 章)
10. 交換モデル (3) (教科書第 5 章)
11. 適応モデル (1) (教科書第 6 章)
12. 適応モデル (2) (教科書第 6 章)
13. 拡散モデル (1) (教科書第 7 章)
14. 拡散モデル (2) (教科書第 7 章)
15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート []・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第 5 講時（事前予約をすること）

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB32502, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：

現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. 学習の到達目標：

社会調査に関する基本的な知識を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』（改訂版）放送大学教育振興会、2009.

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論（社会調査の実際）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB41405, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：

ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。
講義でカバーする内容は次のようなものである。

- ・ゲーム理論による説明形式
- ・戦略型ゲームとナッシュ均衡
- ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡
- ・繰り返しゲームとフォーク定理
- ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡
- ・進化ゲーム理論

4. 学習の到達目標：

- (1) ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。
- (2) ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。
- (3) 自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書 1, 2, 3)
2. イントロダクション (2) (教科書 1, 2, 3)
3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4, 5, 6)
4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4, 5, 6)
5. 展開形ゲーム (教科書 9, 10, 11)
6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12, 13)
7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14, 15)
8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14, 15)
9. 不完備情報ゲーム (教科書 16, 17)
10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)
11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)
12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレーター・ダイナミクス (1) (教科書 22, 23, 24)
13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレーター・ダイナミクス (2) (教科書 22, 23, 24)
14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)
15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート []・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB42501, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会調査の実際

2. Course Title (授業題目)：

Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. 学習の到達目標：

社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)
9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)
10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)
11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)
12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)
13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)
14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)
15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第 2 版]』 東京大学出版会、2004

8. 授業時間外学習：

参考書と補足資料 (ISTU で配付) で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：神林 博史 (非常勤講師)

講義コード：LB32305, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

行動科学のための数理モデル入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Mathematical Models in Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学において重要なツールである数理モデルについて初歩から学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- (1) 数理モデルとは何かを正しく理解できる。
- (2) 数理モデルの基礎となる数学を正しく理解できる。
- (3) 数理モデルを用いて社会現象や人間行動を分析する力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

浜田 (2018) をテキストとして、様々な数理モデルの手法とその考え方を解説する。単にテキストを講読するだけでなく、数理モデルを用いて参加者が自分で社会現象や人間行動を分析できるようになることを重視する。

1. モデルとは何か (序)
2. 隠された事実を知る方法 (第 1 章)
3. 卒業までに彼氏ができる確率 (第 2 章)
4. 内定をもらう方法 (第 3 章)
5. 先延ばしをしない方法 (第 4 章)
6. 理想の部屋を探す方法 (第 5 章)
7. アルバイトの配属方法 (第 6 章)
8. 売り上げをのばす方法 (第 7 章)
9. その差は偶然でないと言えるのか? (第 8 章)
10. ネットレビューは信頼できるのか? (第 9 章)
11. なぜ 0 円が好きなのか? (第 10 章)
12. 取引相手の真意を知る方法 (第 11 章)
13. お金持ちになる方法 (第 12 章)
14. 数理モデルで社会を分析しよう (1) (参加者による報告会 1)
15. 数理モデルで社会を分析しよう (2) (参加者による報告会 2)

6. 成績評価方法：

授業で提示される課題 (30%)、授業内での報告 (30%)、授業内での質問やコメント (20%)、期末課題 (20%)

7. 教科書および参考書：

[教科書] 浜田宏. 2018. 『その問題、数理モデルが解決します：社会を解き明かす数理モデル入門』ペレ出版

8. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるようにテキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LB45404, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

行動科学のための因果推論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Causal Inference for Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学，経済学，社会学，心理学において非常に重要な課題である因果推論（原因と結果の判断）について、その基本的な考え方と代表的な分析方法を紹介する。

4. 学習の到達目標：

到達目標

- (1) 因果推論とは何かを正しく理解できる。
- (2) 因果推論を行うための統計的方法を理解できる。
- (3) 具体的な社会現象について、自分で因果推論を行う能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

中室・津川（2017）および伊藤（2017）をテキストとして、因果推論の考え方と代表的な方法を解説する。授業は、担当者が1章をまとめ、全員で疑問点を確認する。さらに発展のための課題を検討する。

1. イントロダクション：因果推論とは何か
2. 因果関係と相関関係
3. ランダム化比較試験
4. 自然実験
5. 差の差分析
6. 操作変数法
7. 回帰不連続デザイン
8. 傾向スコアマッチング
9. 回帰分析
10. なぜデータから因果関係を導くのは難しいのか（伊藤（2017）第1章）
11. 現実の世界で「実際に実験をしてしまう」（伊藤（2017）第2章）
12. 「境界線」を賢く使う RD デザイン（伊藤（2017）第3章）
13. 「複数期間のデータ」を生かすパネル・データ分析（伊藤（2017）第5章）
14. 実践編：データ分析をビジネスや政策形成に生かすためには？（伊藤（2017）第6章）
15. 自分で RCT をデザインしてみよう

6. 成績評価方法：

授業内での課題報告（40%）、授業内での質問やコメント（30%）、期末課題（30%）

7. 教科書および参考書：

中室牧子・津川友介, 2017, 『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社.

伊藤公一郎, 2017, 『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』光文社新書

その他の文献は授業時に指示する

8. 授業時間外学習：

テキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

ISTU を使ってコメントペーパーを回収する。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB33409, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会調査演習

2. Course Title (授業題目)：

Methods for Social Surveys

3. 授業の目的と概要：

社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。

具体的には、東北大学生を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。

4. 学習の到達目標：

- ① 社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。
- ② 仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

具体的なスケジュールは以下のとおりである。第 1 回から第 5 回の授業では、関心の近い受講者が集まってグループに分かれてもらい、仮説や質問項目の検討を行ってもらう。ただし、最終的には各グループの質問項目を 1 つの調査票にまとめ、実査やデータの入力作業は全受講者で行う。

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

6. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (60%)、最終報告書 (40%)

7. 教科書および参考書：

轟亮・杉野勇『入門・社会調査法』法律文化社, 2010.

8. 授業時間外学習：

調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する。

実査段階：対象者へのアポイントや実査への参加。

分析段階：報告書原稿の作成。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時. 後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

多変量解析

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Research Methods

3. 授業の目的と概要：

統計ソフトウェア R を用いた演習を通じて、多変量解析の諸技法の理論とデータの分析の実際についての理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- 1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
- 2) 統計ソフトウェア R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通り。

- 1 社会調査と分析の流れ
- 2 R の基礎と記述統計(1)：度数分布表
- 3 R の基礎と記述統計(2)：平均、分散、グラフの利用
- 4 推測統計(1)：平均の差の検定、分散分析
- 5 推測統計(2)：相関と偏相関
- 6 推測統計(3)：クロス集計表とエラボーレーション
- 7 多変量解析(1)：回帰分析
- 8 多変量解析(2)：ダミー変数の利用と交互作用効果
- 9 多変量解析(3)：二項ロジスティック回帰
- 10 多変量解析(4)：多項ロジスティック回帰・順序ロジスティック回帰
- 11 多変量解析(5)：主成分分析と因子分析
- 12 多変量解析(6)：媒介効果の分析
- 13 多変量解析(7)：マルチラベル分析
- 14 多変量解析(8)：分析モデルの構築と手法の選定
- 15 多変量解析(9)：総合演習

6. 成績評価方法：

毎回の課題 (40%)、最終レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

永吉希久子. 2016. 『行動科学の統計学』共立出版.

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎回課題を出すので、翌週までに課題を準備しておくことが求められる。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB54205, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

多文化共生論

2. Course Title (授業題目)：

Multicultural Society and Its Problems

3. 授業の目的と概要：

目的：日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

概要：日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。

4. 学習の到達目標：

日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況（仕事や学校、地域生活、家庭生活など）と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。

授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：日本における外国人受け入れの歴史

第3回：国民観の国際比較と国籍・移民制度

第4回：低技能労働者としての外国人

第5回：高技能労働者としての外国人

第6回：ケアワーカーとしての外国人

第7回：難民

第8回：国際結婚

第9回：外国人の子どもの教育①

第10回：外国人の子どもの教育②

第11回：高齢外国人の生活状況

第12回：外国人と医療

第13回：諸外国における外国人受け入れ制度

第14回：地域における外国人住民との関係

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

コメントシート（30%）、最終レポート（70%）

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

外国人の受け入れや在日外国人の生活状況に関連するニュースに関心を持ち、情報を集めておくことが期待される。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB61502, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

リスクと防災の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Risk and Disaster Prevention

3. 授業の目的と概要：

教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。

- ・ 社会関係資本と防災
- ・ 消防団のあり方
- ・ 防災とコミュニティ
- ・ 災害ボランティア

4. 学習の到達目標：

自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。
2. 教科書 (1) 第 2 章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。
3. 教科書 (1) 第 3 章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。
4. 教科書 (1) 第 4 章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。
5. 教科書 (1) 第 5 章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。
6. 教科書 (1) 第 6 章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。
7. 教科書 (1) 第 7 章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。
8. 教科書 (1) 第 9 章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。
9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。
10. 教科書 (2) 第 1 章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。
11. 教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。
12. 前回に続いて、教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。
13. 教科書 (2) 第 3 章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
14. 教科書 (2) 第 4 章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

- (1) 吉原直樹 (編), 2012, 『防災の社会学ー防災コミュニティの社会設計に向けて』(第 2 版), 東信堂.
- (2) ダニエル・アルドリッチ, 2015, 『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』, ミネルヴァ書房.

その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：田辺 俊介（非常勤講師）

講義コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

政治心理学

2. Course Title (授業題目)：

Political Psychology

3. 授業の目的と概要：

政治心理学の諸理論を理解し、ポピュリズムの隆盛など近年国内外の政治的現象について説明できるようになる。

4. 学習の到達目標：

政治心理学の諸理論を理解し、ポピュリズムの隆盛など近年国内外の政治的現象について説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

政治意識や世論の形成メカニズムに関する政治心理学の古典的研究や最新の知見を紹介する。具体的には、政治的社会化、階層と政治意識の関連、政治知識と政治の有効性感覚、政党支持、自己利益と価値観の影響、メディアの影響、選挙制度の影響、ポピュリズムなどを取り上げる。

◆ 授業内容・方法

1. 政治意識研究の特性と位置づけ
2. 世論と民主制
3. 民主制社会における社会階層と政治
4. 政党制と政党支持意識
5. 選挙制度と民主制
6. 政治的知識と政治の有効性感覚
7. 政治意識の形成要因①：自己利益か価値観か？
8. 政治意識の形成要因②：政治的社会化とシティズンシップ教育
9. メディアと民主制
10. ポピュリズムと民主制
11. 社会的アイデンティティと政治意識
12. ナショナリズムと政治意識①：愛国主義
13. ナショナリズムと政治意識②：排外主義
14. 2010年代日本における政治意識と政治行動
15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポートにて行います。課題は、授業で取り扱ったトピックのひとつを取り上げ、それについて計量研究上の課題を明らかにする、というものです。

詳細は授業中にお知らせします。

7. 教科書および参考書：

田辺俊介編、2011、『外国人へのまなざしと政治意識』勁草書房。

田辺俊介編、2014、『民主主義の「危機」』勁草書房。

田辺俊介編、2019（予定）、『現代日本のナショナリズムと政治（仮題）』勁草書房。

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文を実際に読んで、理解を深めることが重要です。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

質問の科学

2. Course Title (授業題目)：

Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. 学習の到達目標：

認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、担当の決定
2. 質問の科学の概観
3. 回答選択肢のレイアウト
4. 項目の方向性とグルーピング
5. 中間選択肢の影響(1)：検出の方法
6. 中間選択肢の影響(2)：個人特性との関連
7. 中間選択肢の影響(3)：メカニズムの検討
8. 複数回答か個別強制選択か
9. 最小限化（満足化）(1)：分析結果への影響
10. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
11. 回答指示の非遵守と反応バイアス
12. レスポンス・スタイルの測定モデル
13. センシティブなトピックと使い捨て項目
14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法
15. 総合的討論

6. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

7. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店

8. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴（教授
准教授）

講義コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会秩序形成とエージェント・ベースト・モデル

2. Course Title (授業題目)：

Formation of social order and agent-based models

3. 授業の目的と概要：

人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1)
2. イントロダクション (2)
3. 社会秩序概念の検討 (1)
4. 社会秩序概念の検討 (2)
5. 自己組織性の理論的検討 (1)
6. 自己組織性の理論的検討 (2)
7. 自己組織性の経験的分析 (1)
8. 自己組織性の経験的分析 (2)
9. 進化ゲーム理論 (1)
10. 進化ゲーム理論 (2)
11. 計算社会学入門 (1)
12. 計算社会学入門 (2)
13. エージェント・ベースト・モデル (1)
14. エージェント・ベースト・モデル (2)
15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時（事前に予約すること）

第 6 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

偏見の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Prejudice

3. 授業の目的と概要：

目的：偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

概要：偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶとともに、今後の研究可能性について議論する。

4. 学習の到達目標：

個々の理論の関連を理解し、偏見に関する一連の研究を体系的に説明できるようになる。

偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Lieterture review を通じて、偏見研究でこれまで得られている知見を学ぶ。初回に担当を割り振り、それぞれが担当の論文について紹介し、全体でそれをもとにした議論を行う。

【授業内容】第1回：イントロダクション

第2回：偏見の諸形態

第3回：偏見と社会的カテゴリ化

第4回：権威主義的パーソナリティとその発展

第5回：潜在的偏見と顕在的偏見

第6回：ステレオタイプ

第7回：接触理論

第8回：偏見と社会制度

第9回：偏見とメディア

第10回：偏見と教育

第11回：性別に関する偏見

第12回：人種・民族に関する偏見①

第13回：人種・民族に関する偏見②

第14回：喫煙・肥満に対する偏見

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表（30%）、ディスカッションへの参加（20%）、最終レポート（50%）

7. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

テキストを事前に読み、担当回については内容をまとめてくる。

偏見によって生じる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB61404, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目)：

Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。
- (2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。
- (3) 準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・一対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. ランダムイズド・レスポンス法(1)：実験の企画、用具等準備
13. ランダムイズド・レスポンス法(2)：協力者募集と実験実施
14. ランダムイズド・レスポンス法(3)：実験実施とデータの整理
15. ランダムイズド・レスポンス法(4)：データの分析

6. 成績評価方法：

レポート（6回）[50%]、平常点（課題への取り組み）[50%]

7. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.

そのほかの文献については、授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書や参考文献を事前に読み、予習をしておく。
- (2) 教科書等で指定された作業（調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある）を行い、その結果をレポートにまとめる。
- (3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

社会科学のためのエコノメトリクス

2. Course Title (授業題目)：

Econometrics for Social Science

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

- データの分析手法を習得する
- 現象の数学的表現を習得する
- 日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする. 計算が必須なので必ず予習すること.

1. イントロダクション
2. 単回帰
3. OLS 推定量
4. 不均一分散
5. 検定
6. 欠落変数バイアス
7. 線形射影
8. 操作変数法
9. 識別
10. 反実仮想
11. 回帰不連続デザイン
12. 行列と漸近理論
13. 漸近効率性
14. GLS 推定量
15. TSLS 推定量, まとめ

6. 成績評価方法：

試験 [30%], 出席 [20%], 宿題 [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

参考書：鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社

久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店.

8. 授業時間外学習：

- 毎週, 指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する
- 指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

9. その他：なし

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい.

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴（教授
准教授）

講義コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

エージェント・ベースト・モデルによる社会現象の分析

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of social phenomena by agent-based models

3. 授業の目的と概要：

エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で社会現象を解明する。

4. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会現象を自分で解明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門（1）
3. プログラミング入門（2）
4. プログラミング入門（3）
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討（1）
7. グループ別の進行状況報告と検討（2）
8. グループ別の進行状況報告と検討（3）
9. グループ別の進行状況報告と検討（4）
10. グループ別の進行状況報告と検討（5）
11. グループ別の進行状況報告と検討（6）
12. グループ別の進行状況報告と検討（7）
13. グループ別の進行状況報告と検討（8）
14. グループ別の進行状況報告と検討（9）
15. 各グループによる最終的な研究報告

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時（事前に予約すること）

第 5 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB65207, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

移動と階層

2. Course Title (授業題目)：

International Mobility and Social Stratification

3. 授業の目的と概要：

目的：出入国管理法の改正に向けた動きが活発化し、さらなる外国人労働者の受け入れが行われつつある。しかし、外国人労働者の受け入れに関しては、制度整備が十分に行われていないことが指摘されている。この授業では外国人留学生の就職／就労をとりあげ、そこでの問題の実態を説明できるようになることを目的としている。

概要：外国人留学生の定着率が高まらないのはなぜか。就労／就職に関わる障壁を検討する。

4. 学習の到達目標：

外国人留学生の就職／就労に関する問題の実態を説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容：関連する文献についてのディスカッションを通じて、内容を理解する。毎回担当者が論文の内容をレジュメにまとめ報告する。さらに、第 8 回、第 9 回、第 14 回（予定）では、国内外の就職活動の状況について各自調べてきた内容をもとにディスカッションを行い、日本の労働市場で留学生が就職活動をする際の困難について考える。

授業計画

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：労働市場と外国人労働者①

第 3 回：労働市場と外国人労働者②

第 4 回：日本における外国人留学生①

第 5 回：日本における外国人留学生②

第 6 回：日本における外国人留学生③

第 7 回：就職活動の国際比較①

第 8 回：就職活動の国際比較②

第 9 回：専門職外国人の労働条件①

第 10 回：専門職外国人の労働条件②

第 11 回：専門職外国人の労働条件③

第 12 回：専門職外国人の労働条件④

第 13 回：専門職外国人の労働条件⑤

第 14 回：外国人向け求人の特徴とは

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表（30%）、最終レポート（70%）

7. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読んでくること。担当回ではテキストの内容についての報告を行ってもらうので、事前準備が必要となる。

また、国内外の就職活動の状況について報告を行ってもらうので、資料収集が必要となる。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB98826, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 】

1. 授業題目：

ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション モデルとはなにか
2. 真の分布, 確率モデル, データ
3. 最尤推定
4. ベイズ推定
5. MCMC
6. 確率分布
7. 汎化誤差, AIC, WAIC, 予測分布
8. Stan による分析：回帰
9. Stan による分析：モデル式の書き方
10. Stan による分析：階層モデル
11. Stan による分析：所得分布分布生成モデル
12. Stan による分析：観測モデルとの接合
13. Stan による分析：時間割引モデル
14. Stan による分析：教育達成の階層間格差
15. まとめと総括

6. 成績評価方法：

レポート [50%], 出席 [30%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

7. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士, 2019, 『社会科学者のためのベイズモデリング (仮)』朝倉書店.

参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店.

松浦健太郎, 2016, 『Stan と R で統計モデリング』共立出版

Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.

その他の参考書は適宜指示する

8. 授業時間外学習：

予習に指定した範囲を事前に読んでくること.

9. その他：なし

本演習では R と Stan による実装例を紹介するので、実行環境を整えたノート PC を持参することが望ましい.